

内子町合併20周年記念 和楽器ユニット「おとぎ」コンサート

【演目紹介】 2025年(令和7年)8月3日

一. 「風雲の刻」 作曲:木場大輔

本日の幕開けは、2011年(平成23年)初演のオリジナル曲です。
尺八と胡弓の無拍節な掛け合いによる導入に次いで、箏と琵琶による疾走感のある展開を経て、
胡弓と尺八が主題を奏でます。おとぎの編成を特徴づける各楽器のソロを順にフィーチャー
しながら、再び主題を提示して勢いに乗ったまま終曲となります。
(CD『音戯紀行』に収録 / YouTube「おとぎチャンネル」にMV公開)

二. 「リンゴ追分」 作曲:米山正夫 / 編曲:木場大輔

美空ひばりの歌で知られる名曲を、津軽三味線の雰囲気を取り入れて軽快にアレンジしました。
ひと味違うリンゴ追分をお楽しみ下さい。

三. 「風の夢」～越中おわら幻想～ 富山県民謡 / 編曲:木場大輔

胡弓が使われる最も有名な祭り、越中八尾「おわら風の盆」。
その風の盆で演奏される「越中おわら節」をモチーフにした、幻想的な趣きのアレンジ曲です。
(CD『音戯紀行』に収録)

四. 「シルクロード組曲 第一番」～月と大地の記憶～ 作曲:木場大輔

I 都大路 II 草原を駆ける III 駱駝と月 IV 高原の旋舞 V オアシスの輝き VI 新たな旅へ

和楽器のルーツとしても縁深いシルクロード。民族や文化の十字路の様々なイメージを
盛り込んだ組曲で、おとぎ結成当初から演奏してきた代表的レパートリーの一つです。
さあ皆さま、おとぎと共に音楽旅行に出かけましょう！(CD『音戯紀行』に収録)

《 休 憩 》

五. 語りと和楽器による音楽劇『桜峠』

月の夜 老桜と胡弓弾きの源さんの魂が語り合う 美しくも哀しい物語…

原作:古木信子 / 脚本・演奏:おとぎ / メインテーマ作曲:木場大輔

朗読:安田知博 / 琵琶歌・語り:川村旭芳

【原作者 古木信子氏より】

『桜峠』が生まれたきっかけは、富山県八尾の「風の盆」でした。胡弓の音を耳に残した
まま、翌日はバスで奥飛騨へ向かいましたが、干上がったダム湖の縁に、沈んだ村の石段の
跡がくっきりと見えました。そして道端には柵で囲まれた桜の老木、村人の希望で残され
たとか聞きました。

『桜峠』は、桜の木と、湖底で妻を待つ胡弓弾きの源さんの魂が、月夜に語り合う物語です。
縁あって「おとぎ」に渡っていた原作が、和楽器と朗読のプロたちによって、美しく哀しい
音楽劇になりました。

◆2013年(平成25年)3月 熊本県山鹿市「八千代座」にて初演

六. 「エイショーエ」 福岡県民謡(福岡市)「祝い目出度」より / 編曲:木場大輔

日本各地の伝統的な祝い歌をモチーフにした、全五楽章から成る

組曲「寿ぎ」～につぼん祝い歌～の最終楽章です。

2019年(令和元年)5月、新時代の幕開けを祝し、おとぎ奈良公演にて初演。

本日のフィナーレに、内子町の更なる発展と皆様のご多幸を祈念して、華やかに奏でます。